

環境セミナー(1)高尾山

これまで馬車馬のように働いてきたから、ろくな昼飯を食べていない。だから、最近はできるだけ遠出をして優雅なランチを楽しむことにしている。写真は11月12日の高尾山である。関東では珍しい暖帯と温帯の混合林、神仏習合の薬王院そして天狗の起源を知ることができる。ここはミシュランの三ツ星である。



高尾山杉並木



暖帯・温帯の混合林



神仏習合の薬王院本社



高尾山頂



高尾山口の蕎麦屋

環境セミナー(2) 深大寺

1月9日調布市の深大寺をお参りした。48年前に東京へ出てきて種々の縁からしばしば深大寺を訪れる。何でもここは、武蔵野台地から湧き出る水が豊富なところで、日本一水の美味しい所と言われてきた。「湧水」という店でお蕎麦を食べたが、昔のお袋の味に匹敵する。店名が地勢を継承しているのもいい。定番の布田天神、大国魂神社もお参りした。神仏習合を実践した。



深大寺 (調布市)



深大寺湧水



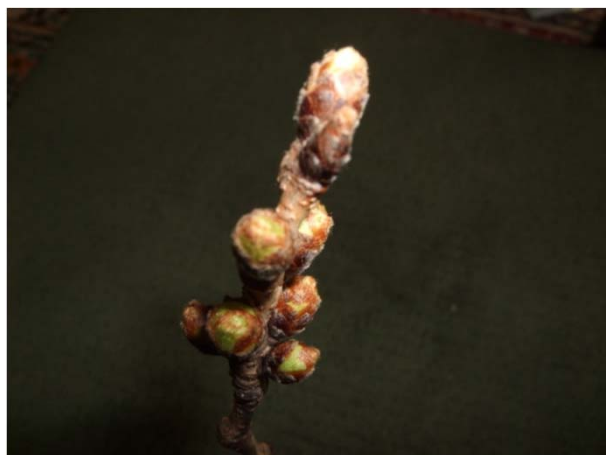
布田天神 (調布市)



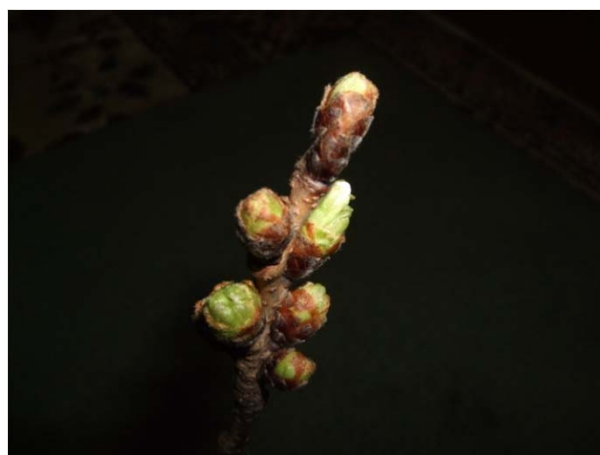
大国魂神社 (府中市)

環境セミナー(3)桜の開花

東京の桜の開花日の素人予想である。3月1日に採取した試料を約15°C (T) の室温で促進養生した。開花直前の12月~2月までの潜伏期間の平均気温の平年値 $t=7^{\circ}\text{C}$ を花芽成長の基点とし、開花(花芽の5%が開花した時点)までの積算温度($M=(T-t) \times D$)を求める。促進養生試料は3月10日に開花した。開花までのMは $(15-7) \times 9=72$ となる。東京の3月の平均気温の平年値が 10°C であるから、開花に寄与する仮想温度は 3°C となる。これより、開花までの日数は、 $72/3=24$ 日となる。よって、東京の桜の開花予想は3月25日である。満開は4月1日?



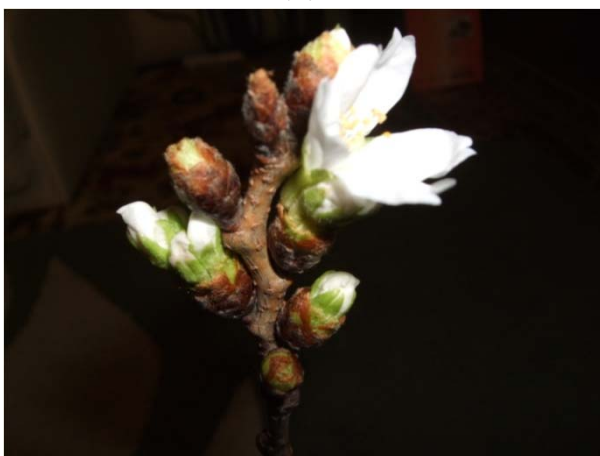
3月4日



3月6日



3月8日



3月9日



3月10日



昨年の多摩市の桜

環境セミナー(4) 多摩の桜

私の家の前には乞田川が流れている。多摩丘陵の湧水を水源とし、聖蹟桜後丘で多摩川と合流する。3月下旬から4月上旬には、京王多摩センター駅付近から永山駅付近の熊野橋までの約3kmにわたって樹齢約40年の桜が見ごろとなる。自宅の前を鎌倉街道が通っており、徳川家康の遺骸を日光東照宮に移すために設けられた一里塚跡がある。鎌倉街道沿いの瓜生緑地では湧水も見る事ができる。自宅から瓜生緑地に通じる遊歩道には乞田川に湧水を導く小さな疎水がある。



桜並木から自宅マンションを望む



自宅から鎌倉街道、桜並木を望む



多摩センター駅付近の桜



瓜生緑地



瓜生緑地に通じる遊歩道



瓜生緑地の湧水

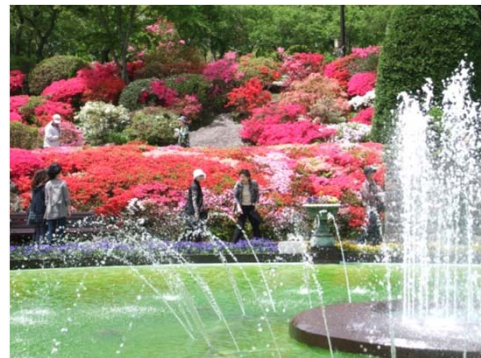
箱根の山のホテルには、つつじの大庭園がある。5月14日の時点ではまだ2~3分であった。何でも、春先の気温が低かったことが開花を遅らせているらしい。ホテルのベランダからは富士山を望むことができるが、黄砂のためにかすんで見える。強羅公園のつつじは満開で、遅咲きのしゃくなげが最後の花を咲かせていた。いずれにしても、花は俺に似合わない。



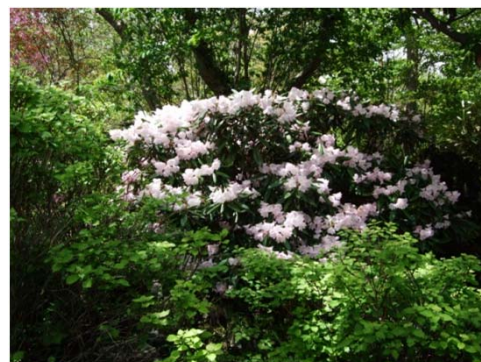
箱根小田急山のホテル



山のホテルから富士を望む



強羅公園



環境セミナー(6) 宮古浄土ヶ浜

昨年8月に宮古市を初めて訪問した。自分のルーツを探索するためである。奥州藤原氏の一族であるとのことであるが、家紋のみでは判断することができない。何でも、戊辰戦争の時に榎本武揚と土方歳三が寄港したらしいが、その時に先祖は蝦夷に向かったのかもしれない。宮古市の田老町に宿泊し、観光遊覧船で浄土ヶ浜の島巡りをした。ここは陸中の代表的な景勝地で、珍しい白い流紋岩と南部赤松の緑とのコントラストが美しい。しかし、今年の3.11の東日本大震災で10mの大堤防があった田老地区と宮古市街も一瞬のうちに崩壊してしまった。無念至極である。



奥州藤原氏一族？



和美石工所



田老町の10mの防波堤



浄ヶ浜のボンネットバス



浄ヶ浜



観光遊覧船



ローソク岩



津波被害を受けた遊覧船

環境セミナー(7)残コンクリート講習会

コンクリート工学会の残コンクリート講習会の第1回目が日本大学理工学部で154名の参加で開催された。これは、建設現場で余ったコンクリート（残コン）を削減し、環境負荷をできるだけ低減しようとするものである。生コンは半製品でありながら、いつの間にか普通の商品と同じように販売されている。そのために、残コンの取り扱いについても施工者と製造者間に認識の隔たりがあり、残コンの削減・有効利用などが適切に行われているとはいえない。残コンの発生抑制に対しては、設計、施工、コンクリートの製造、運搬・打込みなどの工事関係者の連携が必要である。生コンには通常の商取引で解決できない特殊性があることを認識すべきである。



受付と中田幹事長



満員の会場



十河委員長の趣旨説明



講演の様子



懇親会 ジャイアン出沒？



参加者